

平成七年度
十一月祭環境対策委員会
活動報告書

はじめに

NFでの環境問題に対する取り組みは、数年前から続いています。NF全体で取り組んだのは、1年前からです。2年目の今年度は、去年の反省点を踏まえ、うまく改善できた所、できなかった所様々です。ここに報告することによって、3年目に向けて、更なる改善を期待します。そして、他大学で学園祭の引き起こす環境問題に取り組もうとする仲間を少しでも助けることができれば幸いです。

'95年度委員長 林里香

目次

. 11月祭環境対策委員会とは？	p 3・4
- 1 . NF (= November Festival) の表裏	
- 2 . 11月祭環境対策委員会とは？	
. 各部局の活躍	p 5 ~ 43
各部局の Summary	p 5・6
活動日誌	p 7 ~ 9
- 1 . 食品容器部	p 10 ~ 28
- 2 . 廃棄物処理部	p 29 ~ 35
- 3 . 環境調査部	p 36 ~ 42
- 4 . 広報宣伝部	p 42 ~ 43
それぞれ a . '94年度NFはどうだったの？	
b . '95年度での対策案の成り立ち	
c . '95年度NFで実行したこと	
d . 取り組みの評価	
e . 来年へ向けて	
. 組織運営について	p 44 ~ 46
. 参考資料 (別冊)	
全学実行委員会で決議された規約文	当日業務マニュアル
環境対策委員会第1回会議報告	模擬店マップ
環境対策委員会第2回会議レジュメ	ゴミ処理マニュアル
環境対策委員会第1、2回会議報告	環境調査部生データ
環境対策委員会第3回会議報告	生協共同購入リスト
環境対策委員会第4回会議レジュメ	スタッフ募集のポスター
模擬店配置に関する提起(案)	アンケート集計結果
食器レンタルのシステムについて	
デポジット制、その他に関するアンケート	
当日業務マニュアル	
食器レンタルの説明	
食器貸出申込書	
エコプレートのご案内	

．11 月祭環境対策委員会とは？

- 1 . NF (= November Festival) の表裏

みなさん、“NF”を知っていますか？NFには顔があります。11月下旬の4日間（前夜祭・片づけを含めると6日間）を費やして開催される京大学園祭“11月祭”は、全国の中でも第1級規模でしょう。当日、150店ほどの模擬店が甘いにおいであなたを誘い、ステージでバンドのかもし出す音があなたを酔わせ、教室展示のすばらしい作品はあなたに涙を誘うでしょう。

しかし、ふと目にしたゴミ箱から眼をそらさないで下さい。使い捨ての発泡スチロールトレイ、空缶...であふれかえっています。そうです、“NF”は現代の大量生産・消費社会の鏡像なのです。そしてこれらのゴミは分別すれば資源となりますが、そのまま捨てれば様々な問題を引き起こします。NFから出たゴミは京大の従来からのゴミ処理方法通り、自家焼却を基本としており、発泡スチロールなども燃やしてしまいます。不完全燃焼によるすすの発生、また塩素系プラスチック燃焼によるダイオキシンの発生も予想されます。これらはNFが引き起こすもの、NFは私達が作り出すものです。私達が変わっていく以外、道はないでしょう。また、これらの使い捨て容器類はゴミ総量約4tのおよそ半分のなんと2tを占めています。アンケートによると、約6割の人が「ゴミを出す以上責任は私たちにあり減らすべき」と答えています。（第4回模擬店単位実でのアンケートより）。

しかし、たとえNFが変わったとしても現代の大量生産・消費社会が変わらなければ、資源枯渇、環境汚染、地球温暖化などの問題は解決しないから無駄な努力はお止めなさいとおっしゃる方がいるかもしれませんが、私達はそうは思いません。私達の取り組みに触れ、1人でも多くの方が自分の生活を見つめ直してくれるなら、それは私達の喜びです。

- 2 . 11 月祭環境対策委員会とは？

' 9 3 年度 NF 環境調査（工学部 1 1 月祭実行委員会による）の結果と提案を受けて、' 9 4 年度 NF から、環境対策を実際に行っていくことになりました。対策案を実現するには、例えばゴミを減量するためには多くの人々に呼びかけることが必要です。そこで、NFの最高議決機関（11月祭全学実行委員会）でNF全体で環境負荷の削減に取り組むこと、そしてその専門委員会として11月祭環境対策委員会を発足させることを提案し採択されました。そしてNFでの事務・業務を総括する11月祭事務局と協力して環境対策を練り、実行していくことになりました。（' 9 4 年度 NF）

' 9 5 年度も去年と同様、11月祭全学実行委員会第1回（6 / 8（木））で、ゴミダイエット学園祭を提案し、当委員会を発足させました。去年の反省点を踏まえてこれらの取り組みのさらなる拡大を目指すべく、私達は動き出しました。

参照... . 参考資料

組織の詳細については、 . 組織について

NF を作る団体

組織の話はややこしいもの。図にしてみましよう。

．各部局の活躍

6 / 1 5 (木) に開かれた 11 月祭環境対策委員会第 1 回において、委員長・議長が選出され、食品容器部・廃棄物処理部・環境調査部の設置が提案されました。また、他にできることとして、広報宣伝部が挙げられました。(NF が引き起こす環境問題について啓発するため、また活動を円滑に行なうために広報宣伝を行うのが目的)

そして各部に担当者を置き、その人を中心として、対策案を作り、実行していくことにしました。

これから、各部局の活躍を担当者を中心にレポートしてもらいます。次の 6 点にまとめて振り返ります。

- a . ' 9 4 年度 NF はどうだったの？ (昨年度の反省点・提案を振り返ります。)
- b . ' 9 5 年度での対策案の成り立ち (対策案が最終的に 1 本にしぼられていく過程を簡単にたどります。)
- c . ' 9 5 年度 NF で実行したこと (実際に行ったことを書きます。たまに対策案通りにいかないこともあります。)
- d . 取り組みの評価
- e . 来年へ向けて (来年へ向けての提案を行っていきます。)

では、リポーターにバトンタッチ！まずはサマリーと活動日誌。

s u m m a r y ●

食品容器部

食品容器部では、11月祭で発生するごみの多くを占める「使い捨て容器」を減らすため、洗える食器の貸し出しなどを94年度から行ってきた。94年度の取り組みの中では、取り組みに参加する模擬店が少なかったことが問題となった。この原因として、食器レンタルでは洗い場などの関係で参加できる模擬店に限りがあること、模擬店自らがすすんで取り組んでいくという状況を作り出せなかったこと、があげられた。

95年度は、これらに対処するべく、エコプレートの導入と環境に関する取り組みへの模擬店の主体的な参加の促進とを活動の主軸とした。エコプレートに関しては、使用後にそのまま燃やしてしまうのではなく、回収・堆肥化するルートにのせることが出来た。洗える食器には限りがあるが、エコプレートであれば全ての模擬店が使うことも可能であり、参加の可能性を広げた。模擬店の参加の促進に関しては、模擬店単位実行委員会(模擬店代表者が集まる会議)において、(食器運搬などの労力を減らすために)模擬店の配置方法を変更する案を模擬店の間で論議することが出来た。事務局からの連絡事項を伝えるのみの場となっていた模擬店単位実行委員会が、模擬店の意思決定の場であるべき事を示した。

しかし、前者に関しては、エコプレートを使う模擬店が少なく、回収率も良くなかった。後者については、模擬店との話し合いが十分になされないままに提案は否決されてしまった。今後は、エコプレートの効果的な回収方法の考案、個々の模擬店の参加の促進、有効な対策を行うための意思決定のあり方の改善、が必要となる。

廃棄物処理部

缶・ビン・段ボール・廃油・エコプレートは、捨てればただのゴミ、分別すれば資源になります。分別率がなかなか上がらない主な原因は、周知不徹底です。どのように広報宣伝していくかが、課題となります。

環境調査部

N F が環境に与える影響を調査しようというもの。ゴミ量、組成調査などから皿貸しやエコプレート使用の呼びかけ、リサイクル促進などの取り組みの成果を調べる。

ゴミ量調査はより正確なデータを取るための方法を見つけられるか、組成調査はPRをいかに行うかが、ネックとなった。

広報宣伝部

11月祭参加者に対して、ごみ減量への理解・協力を求めるためのセクション。95年度は不満足な結果に終わった。96年度に乞うご期待。

活動日誌

食品容器部

- 4/7（金）エコプレートについて住商と初顔合わせ
- 5/30（火）準備会
- 6/6（火）準備会 94年度活動報告書簡易版検討
- 6/8（木）全学実第1回
- 6/15（木）環境対策委員会第1回 対策案についての案だし
- 6/28（水）準備会 お祭り広場・中央を分割して募集する方式、抽選後模擬店間の話し合いによって決める方式、など模擬店配置変更について、いくつかの案が出される。
- 6/29（木）環境対策委員会第2回 「企画がすすんで取り組みに参加できるように、取り組みを行う企画が他の企画に比べて不利の無いように条件を整える」ことを環境対策委員会が行うことを確認。
94年度に、食器レンタルに参加した模擬店の代表者に来てもらい、昨年どのようなことで苦労したかなどを聞く。配置方法変更についてのいくつかの代替案の検討。
- 7/5（水）エコプレートについて住商と打ち合わせ
- 7/6（木）全学実第2回
- 7/11（火）準備会 抽選後に参加模擬店を指定箇所を集める方式で、模擬店配置方法変更の提起を行うことを内定。
- 7/13（木）環境対策委員会第3回 配置方法変更の提案を行うことを確認。エコプレートを生協で取り扱ってもらうことの確認。
- 8/27（日）準備会 9月までの行動計画の確認。一般企画実行委員会に提出する「模擬店配置に関する提起」を検討。
- 8/29（火）一般企画実行委員会に「模擬店配置に関する提起」を提出
- 9/18（月）準備会 11月祭当日までに行うべき作業内容を確認。
- 10/4（水）全学実第3回
- 10/5（木）準備会 模擬店単位実での提案の仕方についての打ち合わせ、文書の検討
- 10/7（土）食器枚数のカウント、受け付け宣伝用立て看板の作成
- 10/10（火）模擬店単位実での提案について事務局とつめる。
- 10/11（水）第1回模擬店単位実行委員会
模擬店配置変更の提案。デポジット制に関する模擬店へのアンケート。
会議後、否決を受けての善後策を検討。申込期日の延長を決定。
- 10/14（土）レンタル食器カタログ作成、サンプル食器陳列ボード作成
- 10/24（火）環境対策委員会第4回
- 11/1（水）第3回模擬店単位実行委員会 食器レンタル申し込み締め切り
- 11/4（土）食器の割り当て仮決定、模擬店への連絡。
- 11/5（日）準備会 食器の割り当て、シフトについての調整

11/8(水) 模擬店単位実第4回 食器レンタルについてアンケート

11/12(日) 各種実務

11/17(金) 食器の事前洗浄

11/18、19 各種実務

11/23(木)～26(日) 本番

11/27(月) 片づけ：使用料金回収、エコプレート搬出

廃棄物処理部

6/15(木) 環境対策委員会第1回 透明ゴミ袋使用の意見がでる。

6/29(木) 環境対策委員会第2回 透明ゴミ袋使用・エコプレートコンポスト化決定。

7/13(木) 環境対策委員会第3回 6分別を確認。公衆ゴミ箱の分別の種類、形を検討することを確認。

夏休み コンポスト化の意義の整理

9/25(月) 文学部企画説明会 ごみ処理マニュアル配布・説明

10/ 前夜祭模擬店説明会 ごみ処理マニュアル配布・説明

10/17(火) 学生部との会談 処理業者確認。コンポスト化費用の負担をお願い。

10/18(水) 経済学部中間実へゴミ処理についてのお願い

10/24(火) 環境対策委員会第4回 エコプレートの処理方法を決めた。

10/31(火) 事務局へ公衆ゴミ箱の形について提案

11/1(水) 模擬店単位実第3回 ゴミ処理マニュアルを配布・説明

11/8(水) シフト表作成開始

11/17(金) 一般企画実 廃油回収の呼びかけ

11/18(土) 分別指導用腕章作成

11/22(水) 分別指導マニュアル作成

11/23～26 本番

11/27(月) 片づけ；廃油回収St. 撤去

環境調査部

6/15(木) 環境対策委員会第1回 部局立ち上げ

10/13(金) 部会第1回 一昨年、昨年の報告・反省、そして今年の対策案

10/24(火) 環境対策委員会第4回 担当者決定 各案について検討

10/30(月) 部会第2回

11/6(火) 部会第3回 テクニカルな面まで

11/8(水) 模擬店単位実第4回 アンケート配布・一部回収 シフト表作成開始

11/23～27 本番

データ整理

広報宣伝部

6/15(木) 環境対策委員会第1回 部局立ち上げ

6/29(木) 環境対策委員会第2回 「学外情宣については別途協議の上、全学実行委員会が最終的責任を負う」ことで同意

キャンパスエコロジーの一環として、新聞での宣伝を検討

10/24(火) 環境対策委員会第4回 クイズラリーを行うことを確認

各委員会日程

- 6/ 一般企画実行委員会第1回
- 6/8(木)全学実行委員会第1回
- 6/15(木)環境対策委員会第1回
- 6/29(木)環境対策委員会第2回
- 7/6(木)全学実第2回
- 7/13(木)環境対策委員会第3回
- 10/4(水)全学実第3回
- 10/11(水)模擬店単位実行委員会第1回
- 10/24(火)環境対策委員会第4回
- 10/25(水)模擬店単位実第2回
- 11/1(水)模擬店単位実第3回
- 11/8(水)模擬店単位実第4回
- 11/17(金)一般企画実

- 1 . 食品容器部

a . 9 4年度 1 1月祭はどうだったの？

使い捨て容器の使用減量等のため、模擬店準備会議（7月）を開いて対応を考え、模擬店に対して洗える食器の貸し出しを行いました。貸し出す模擬店は、洗い場が近くに確保できるように、お祭り広場内の模擬店に限りしました。また、食器が確実に返ってくるようにするため、デポジット制を導入しました。各模擬店で、来場者（客）に販売する際に食べ物の価格に100円を上乘せ、食器を買った模擬店に返却すると100円が戻ってくるという形式。

9 4年度の取り組みの評価

1 環境に与える負荷の削減についての評価

11月祭期間中に3522枚（紛失したのは16枚のみ）の食器を貸し出し、使い捨て容器の使用を減らしました。

2 貸し出し方法の評価

94年度は食器を貸し出す模擬店をお祭り広場内に限ったため、中央キャンパスで参加を希望している模擬店に伝えることが出来ませんでした。（模擬店の抽選と同時に配置場所が決まり、食器レンタルの受け付けはその後に行うという順番だった）

デポジット制については、客への説明が大変だったという模擬店が多く、デポジット金を預からない模擬店もありました。食器の回収率は、どこの模擬店でも高く、支障をきたすようなことはありませんでした。

（今後、使い捨ての食器を減らしていくためには、・さらに新しく洗い場を中央キャンパスに設置する ・食器貸し出しを行う模擬店を1カ所に集める ・洗える食器以外の方式を考える ことが必要となる。）

3 模擬店の参加についての評価

お祭り広場内の模擬店数は57店でした。これに対して食器の貸し出しを受けた模擬店は6店のみ。食器の枚数・洗浄機の回転効率などからある程度は参加できる模擬店の数は制限されるが、その上限は20店ほどであり、参加実績はこれをはるかに下回ることとなりました。

参加が少なかった要因としては、以下を考えました。

・食器貸し出しのシステムに模擬店の意見を十分に反映できなかった。

模擬店からの意見を取り入れる場としては、模擬店準備会議を設定した。しかし、貸し出しシステムについての質問を受け付ける場という感が強かった。環境への負荷を削減するという目標に対し、模擬店としてどのようなことができるのかを考えること（早期に行うことが必要）また、具体的な対策案について論点を絞って決定していくこと、ができなかった。

・環境対策を進めることへの各模擬店での動機付けが不明確であった。

全学実行委員会で「環境への負荷の削減のための具体的な対策を講じる」との決議がなされたこと、これに基づき環境対策委員会が食器貸し出しの取り組みを行っていることについて、模擬店への周知は必ずしも徹底していなかったと思われる。このため環境対策委員会として取り組みの意義を十分に伝えることが出来ず、利便性や価格のみから参加・不参加を決定した模擬店が多かった。

また、「総合的な～対策を講じる」としながらも、環境への取り組みを行った模擬店の方が、環境への配慮に欠いた模擬店よりも多くの負担を負う対策のみの実施となった。

「今後に向けて」

以下の事柄が提案されました。

模擬店との関係から

- ・ 模擬店への周知徹底
- ・ 模擬店単位実行委員会の環境対策への主体的な取り組みの実施

食器関連のごみ削減の具体的手段

- ・ 食器貸し出し方式の改善
- ・ 新たな手段の採用

b. 95年度11月祭の対策案の成り立ち

1. 食品容器部として行うことの枠組みの決定

第2回環境対策委員会において、以下の3つを行うことを確認しました。

- ・ 食器の貸し出し、でんぷん食器の使用により、使い捨て皿を削減する。
- ・ 企画がすすんで取り組みに参加できるように、取り組みを行う企画が他の企画に比べて不利の無いように条件を整える。
- ・ 実施後の模擬店の感想を集め、次年度に活かす。

具体的な対策としては、食器レンタルの継続（改良）と、でんぷん容器（エコプレート）の導入とにに取り組むこととなりました。

2. 食器レンタルについて

（食器レンタルの概要は、[こちら](#)を参照して下さい。）

2.1. 94年度、食器レンタルに参加した模擬店からの意見を集める

第1回環境対策委員会および次の準備会での議論では、94年度に行った食器レンタ

ルの取り組みの問題点について、委員の間で意見が分かれました。そのため、実際に参加した模擬店の代表者を第2回環境対策委員会に招き、参加して苦労したことなどの感想を聞きました。出された意見は以下の通り。

- ・食器を洗浄・運搬する手間がかかる
- ・客の一人一人への回収システムの説明が煩雑（隣の模擬店と仕組みが違う）
- ・デポジット金を課しているために、客数が減少する
- ・使い捨ての皿に比べ割高（洗浄の手間なども考えると）

これらの問題点に対して、模擬店配置の見直し・客への説明の強化・デポジット制度の参加意志のある模擬店による話し合いでの決定・食器使用料の見直し などで対応することとなりました。

2.2. 模擬店配置変更の提案

（中央の模擬店が参加できないという問題を解消・運搬の煩雑さを軽減）

模擬店の配置に関する問題点は大きく分けると2つになります。

一つは、食器の洗浄に伴って、食器の運搬が必要となり、吉田食堂から離れたところでは、模擬店の負担が増えるということ。（昨年は吉田キャンパスのみで実施したがそれでも不満の声があがった）

もう一つは、食器貸し出しに参加する模擬店が1カ所にかたまらず、バラバラであると、客への貸し出しの説明が煩雑になるということ、です。

これらに対し、いくつかの対策案を環境対策委員会で検討しました。

- ・案1：貸し出しをお祭り広場に限定し、模擬店抽選後、食器利用に配慮した模擬店の配置を行うことを模擬店単位実行委員会で決定するよう、一般企画実行委員会に提案する。
- ・案2：貸し出しをお祭り広場に限定し、模擬店抽選後、模擬店間の話し合いにより、模擬店の場所の交換をすることを認めるようにする。
- ・案3：貸し出しをお祭り広場に限定し、企画抽選をキャンパス（グラウンド）ごとの抽選とする。（申込みの時にどちらのキャンパスにするかを模擬店が選べる）
- ・案4：貸し出しを吉田・中央の両方で実施し、大量の皿を用意し、食器運搬回数を減らす。

案2については、模擬店の場所の交換にからみ、金銭の授受などが行われる可能性があること。

案3については、同一団体による複数のキャンパスへの同時申し込みが増える危険があること。

案4については、大量の皿を用意する目処がたたないこと。また、模擬店がバラバラになり問題点の二つ目が残ること。

以上のように、案2以降は、それぞれ欠点があるため、基本的には案1を推進してゆき、皿が大量に確保された場合には案4を検討することとなりました。(7月13日の時点で)

この変更案を8月末一般企画実行委員会(代表者会議)に提出し、これが模擬店単位実行委員会での審議事項として認められました。10月11日の第1回模擬店単位実行委員会で、変更案が討議されましたが、反対意見もあり否決されてしまいました。(詳しくは後述)

この否決を受けて、対策を変更し、中央への貸し出しも行うこととしました。

2.3. デポジット制について

デポジット制については、設定金額が高い/説明が面倒/効果が不明 といった点が問題となっていました。いくつかの案を環境対策委員会で考え、第1回模擬店単位実行委員会が終わった後に関心のある模擬店に残ってもらい、デポジット制について説明、アンケートをとる、ということにしました。アンケートの結果から、デポジット制を採用する採用しないは個々の模擬店の判断に任せ、実施する場合にはデポジット金の額は一律50円(前年度は100円)とすることになりました。

2.4. 食器使用料金の見直し

食器使用料(=食器の洗浄にかかる費用を生協食堂に支払う)を、食堂の水道光熱費などをもとに計算し直し、94年度は1枚1回あたり4円であった洗浄費を、95年度は3円に変更しました。

2.5. 模擬店の主体的な参加を促すために

模擬店が積極的に環境対策について考え実行していくという状況を作り出すために、環境対策委員会が行ったことは大きく分けて二つあります。一つは、模擬店が環境に取り組んでいくための動機付けを持たせるという事。もう一つは、具体的な改善策を模擬店の意思によって決定できる仕組みを作る(対策案に模擬店の意見を盛り込む)ことです。

動機付けを持たせるという点については、

- ・模擬店単位実にて、11月祭が環境に与える影響についてOHPを用いて説明する。
- ・各種宣伝物において、環境に取り組むことの必要性、前年参加した模擬店の感想、などを伝える。

といったことをすることにしました。

模擬店の意思によって決定できる仕組み作りという点については、

- ・貸し出しシステムの確定に模擬店の意見を反映させる ようにすることにしました。
- 具体的には、「配置変更の提案の採否によって変動する部分」と「デポジット制に関する

る部分」を除いた部分については環境対策委員会内で決め、2点については未定のまま模擬店単位実にて紹介、提案の採否とその後の模擬店との話し合いをもとに決めることとしました(前述)。この2点を設定するにあたって、95年度出店予定の模擬店から事前に意見を集約するという事はしていません。

c. 95年度11月祭で実行したこと

<事前の準備について>

1. 食器レンタルに関して

1.1. 配置変更に関する事項

- ・第1回模擬店単位実前の模擬店への連絡

1回生クラスで模擬店を出すところを想定し、10月5日の総代定例会で環境対策委員会の紹介、模擬店で出来る環境への取り組みのすすめを行った。

環境対策委員会メンバーの知り合いなどを通じて、1回生クラスへの働きかけを行った。

- ・第1回模擬店単位実行委員会での論議の経過など

11月祭環境対策委員会の活動の紹介

11月祭が模擬店に与えている環境への影響(OHP)

エコプレートの紹介

食器レンタルの紹介

配置変更の提案(事務局より)

という順番で提案を行った。

食器レンタルの紹介までは環境対策委員会メンバーで行い、配置変更の提案は事務局からの提案という形をとった。提案についての質疑応答の後は、模擬店代表者のみが発言を許された。

模擬店から出された意見：

提案に従うと、模擬店の配置決定が従来よりも遅れる。模擬店で何を作るかは、出店場所を考慮して行うので、配置決定が遅れるのは不都合。

食器レンタルに参加している/参加していないの判断基準があいまい。特に、洗える皿と使い捨て皿とを併用する場合について。1枚だけ借りて、他は全て使い捨てでも参加しているとみなすのか。予備のために使い捨て容器を用意することを認める場合の線引きをどのようにするか。

お祭り広場の方が客が多く来るような気がする。食器レンタルに参加しない模擬店に場所による不公平が生じるのではないか。

環境対策委員会が行う食器レンタルとは別に、独自に洗える皿を用意する場合、提案では参加模擬店とみなされないの、そのような模擬店に不利になる。(これは会議での発言ではなく、アンケートに書かれていた)

提案の趣旨に賛同できるので、ぜひ推進して行くべき。

ある程度時間がたったのち、議長の判断により挙手による採決がとられた。提案に反対する代表が約半数。全会一致を基本とするため、提案は否決された。

会議の雰囲気：

会場は80人ほどが入れる教室で行われた。模擬店代表の人数が多く、立ち見となるものもいた。すぐ近くの教室でバンドの練習が行われており、前にたって発言するものの声を聞き取るのも困難。

1.2. 貸し出しシステムの確定と周知

10/11 第1回模擬店単位実行委員会後、残った模擬店の代表者は6～7人程度。活発に意見が交わされるということにはなかった。システムについて模擬店の関心が高かったのは、申込みの締切期限であった。10/12以降、確定したシステムを知らせるため、システムを説明したビラの配布、模擬店代表者への連絡（電話かけ）を行った。食器レンタルやエコプレートの使用をすすめる他に、クラス（サークル）内での合意形成の仕方、食材を過剰に買わないようにすること、などもアドバイスした。

1.3. レンタル食器の確保

前年度使用した食器（すでに使わなくなった食器を譲り受けたもの）を再び使った。新たな食器を確保することも試みたが、集まらなかった。（種類を考えず）全体としては確保された食器の数は十分にあったのだが、どんぶり型の食器についてのみ枚数が不足したので、現役で使われているどんぶり数枚を食堂から借りた。

10/07 生協会館「にじ」に保管されている食器を枚数毎にカウント。貸し出せる枚数を決める。

11/17 食器を事前に洗浄。段ボールに入れて保管。

1.4. 参加模擬店の受け付け

10/11 第1回模擬店単位実 申込み受け付け用紙を配布。

10/12 中央購買部カウンターにて受け付け開始。（生協に申込用紙を預かってもらうよう依頼しておいた。このカウンターは模擬店用品の受け付けを行う場所でもある。）

10/14 申込み時に、食器の種類が分かりやすいように、サンプルの食器（実物）を陳列したボードと写真を用いたカタログを作成。10/16より展示。

10/25 第2回模擬店単位実 出張受け付け。

11/01 第3回模擬店単位実 出張受け付け。申し込み締め切り

申込み受け付けをしているときに、同じ食器を使うことを希望する団体が複数あり、食器が足りなくなることが予想されることがあった。このような場合については、該当する団体に連絡を取り、他の食器を使うことをすすめるなどした。

1.5. 模擬店対象アンケート

- 10/11 第1回模擬店単位実 会議後、食器レンタルのデポジット金についてアンケート。
- 11/8 第4回模擬店単位実 出席していた全模擬店代表者に、食器レンタルについてのアンケートなどを配布。会議後すぐに回収。
- 1 1月祭本番中に、食器レンタル参加模擬店にアンケートを配布。1 1月祭終了後、個別に回収。

1.6. 当日備品の作成

- 11/12,18,19 レンタル食器使用を示すポップ、立て看、のぼり。食器運搬用の箱の確保。

1.7. 当日作業の準備（シフト、マニュアル作成）

- 11/05 食器洗いの模擬店のシフト第1案を作成。模擬店代表に都合を聞く。
- 11/12 シフト第2案を作成。模擬店代表者に伝える。
模擬店単位実などの場で模擬店代表者に会い、シフトの仕事の説明をする。
- 11/22 当日業務マニュアル最終版完成。

- < 当日 > . 参考資料 当日業務マニュアル参照
- 朝：各模擬店ごとに食器をまとめ、箱に入れておく。
食器をとりにきた模擬店に引き渡す。
必要に応じて模擬店にシフトの時間を伝える。
- 昼：使い終わった皿が洗い場に運ばれてきたら洗う。
貸し出した枚数をカウント。
模擬店でトラブルがないか巡回。
- 夜：模擬店の営業終了後、食器の枚数を確認。

< 1 1月祭終了後 >

- 11/27 食器使用枚数の集計。請求書作成。料金回収。
アンケート回収。
エコプレートの堆肥化施設への運搬。
- 12/07 反省会。

d. 取り組みの評価

1. 概観

1.1. 参加模擬店数、使用枚数など

お祭り広場 3店 中央 3店 北部 1店

総使用数（北部を除く） 3263枚 紛失枚数 17枚 紛失率 0.52%

昨年とほぼ同じ。

1.2. 参加模擬店の感想

1.3. 回収方式について

中央キャンパスからの食器の運搬は、割り当てる食器の枚数を増やすことによって、基本的に1日に2回と極力回数を減らすようにした。また、運搬には台車を使えるようにした。特に混乱は生じず。

お祭り広場においても、可能な所（食器がたくさんある模擬店）では、運搬の回数を減らすこととした。運搬による負担はかなり軽減できた（はず）。

1.4. 洗浄方式について

94年度は洗浄機を使用していたが、95年度は手洗いを基本とした。（当日になって変更）手洗いでも汚れが落ちること、機械を作動させるのはエネルギー効率が（たぶん）悪いこと、による。

2.94年度報告書で問題として掲げられていた事項がどの程度改善されたか

2.1. 模擬店への周知徹底

- 食材の過剰購入をしないようアドバイスする（エコマネジメント）などの点で前進
- × クラスへ直接はたらきかけることをしなかった
- × 93年実施した模擬店準備会議を行わなかった
- × 連絡先を入手できない模擬店があった

代表者との連絡では好感触を得ていたところも、クラス（サークル）に持ち帰って話をしたところエコプレートの使用をやめることになる、といった事例がいくつかあった。環境対策委員会の伝えたいことが模擬店の代表者に伝わっても、代表者が自分の団体の他のメンバーにそれを伝えることに難点があるようだ。その意味で、クラスへの直接の働きかけ（クラス入りして説明するなど）を今年度行わなかったことは、手痛い。

また、94年7月に実施していた模擬店準備会議（模擬店出店予定者を集めて、環境対策委員会の活動について知らせ、食器レンタルについての質問を受けつける）に相当することを95年はしなかった。このため、環境対策委員会が模擬店と最初に接触を持つのは、第1回模擬店単位実となった。（いくつかの1回生クラスについては、事前に連絡をとっていたが少数）十分に模擬店と話し合いを行う時間を持つことが出来なくなった。抽選終了後でない、実際に参加する模擬店が確定しないということが、早期に模擬店と連絡を行うことが出来ない要因である。

2.2. 模擬店のシステム作りへの参加

前年度参加模擬店の環境対策委員会への出席
有用な意見を聞くことが出来た。

デポジット制についての話し合いの実施

話し合いを設定したこと自体は評価できるが、成果に欠けた。模擬店にとって関心のある事柄でなかったためとも思われる。模擬店が関心を持つことがらについて話し合いを行うことが、意味のある話し合いをするために大切。デポジット制がテーマとなったのは、システム上の問題点を環境対策委員会の側から考えて決めたためであった。

「配置方法変更案」を模擬店単位実で論議

模擬店単位実行委員会を単なる連絡会でなく、意思決定の場とする意味はあった。しかし、十分な論議をすることが出来なかった。理由については3.で詳述。

× 「配置方法変更案」作成過程で模擬店との話し合いが不十分

模擬店単位実で「一発通し」でないと間に合わない「配置方法変更案」は、環境対策委員会（と事務局、代表者会議）の中で意見調整が行われたものであり、模擬店の意見は含まれていなかった。

2.3. 模擬店への参加の動機付けの明確化

模擬店単位実でOHPを使い、11月祭が環境に与えている影響を説明

内容としては、94年の模擬店準備会議と同様のもの。ごみがどれほどたくさん出ているかを知らせる内容であった。配置変更の提案での「企画がすすんで取り組みに参加できるように、取り組みを行う企画が他の企画に比べて不利の無いように条件を整える」という基本的な考え方からは、環境への取り組みを行っていない団体がごみを出し放題にしている状況を伝える事の方が適切であった。基本的な考え方に対する同意は、ほぼすべての模擬店から得られた。（91%；模擬店単位実でのアンケートより、参考資料別冊）参照）

× 94年実施した模擬店準備会議を行わなかった

この模擬店準備会議に参加していた模擬店から、何団体かが食器レンタルに参加していた。動機付けを与える効果があったものと考えられる。これを今年はやらなかった。動機付けを与える機会を一つ逃した。

× 環境対策委員会立ち上げ時点での戦略の欠如

動機付けを明確にすることを重要と認識しつつ、11月までにどのようにして模擬店にアプローチしていくのかの計画を作成しなかった。このため、対応が遅れた。

2.4. 取り組みを行う方が多く負担をおう状況の改善

「企画がすすんで取り組みに参加できるように、取り組みを行う企画が他の企画に比べて不利のないように条件を整える」ことを環境対策委員会で確認。多くの模擬店にも受け入れられた。（91%；模擬店単位実でのアンケートより）

× 不利のない条件についての合意が模擬店の間で得られていない。

具体的な事柄（締切をいつにするかなど）を話し合う前に、環境への取り組みについての前提となる姿勢が確認されなかった。このため、模擬店単位実での論議に食い違いが見られた。

- × 提案が否決されたため、模擬店のおう負担は実質的に昨年と変わっていない。
- * 模擬店が食器レンタルに参加しない理由は、「適切な皿がない(皿を使わない)」「出店場所が吉田でなく中央」が飛び抜けて多い。食器洗い・運搬・デポジット金授受・食器返却の手間を理由に挙げた模擬店は、各7～9%(合計1/3)となっている。(模擬店単位実でのアンケートより) 96年度は、これらに対処することが必要。

2.5. 食器貸し出し方式の改善

食器運搬回数を減らす

頻繁に食器を運ぶことが、食器レンタルに参加した際の負担として大きな部分を占める。これを改善することができた。

中央からの申込みも受け付ける

当初の予定とは異なるが、中央キャンパスの模擬店でもレンタル食器を使えるようにした。受け付け開始後、中央からの申込みを受けて対応をどのようにするか考えた(途中で方式が変わった)ため、正確な情報を模擬店に伝えることが出来なくなった。

- × 1カ所に集めることは出来ず

2.6. 新たな手段の採用

エコプレートを導入

- × 回収率があまり高くない
- × 参加模擬店数が少ない

3. 模擬店単位実で提案が否決されたことについて

3.1. 何が否決されたのか

模擬店単位実行委員会での論議で出されていた反対意見は、配置決定が遅れることによる問題など具体的な方法に関わる事柄と、不参加模擬店が不利益を受けることに同意しないというもの(基本的な考え方に対する反対)とに分類できる。前者についても、その裏には環境への取り組みをすすめることに対する無関心さがあつたと考えるのが妥当であろう。「基本的な考え方」に対する反対と「方式/やり方」に関する反対とが、どのような理由でなされたのかを考える。

「模擬店配置変更に関する基本的な考え方」が否決された理由

- ・問題意識が伝わらなかった。(ゴミを自分で出していることに対する責任を模擬店代

表が感じなかった)

- ・不利のない条件にするために、不参加模擬店が不利益を被ることに同意しなかった。

20分ほどの説明で考えを伝えきるといふには無理がある。伝え方についても、模擬店が自ら考えるというのではなく、環境対策委員会の考えを受け入れてもらうというかたちであった。問題を伝え、何が出来るのかを考えてもらい、基本的な考え方に同意するというのが理想的。

「自分が出しているごみを自分が処分すべきである」という認識がないと、「環境に取り組む」ことは好き勝手にやっている道楽と受け取られかねない。そのような考えが前提にあれば「好き勝手に増やしている負担をどうして他の模擬店が軽減しなければならないのか？」ということになってしまう。「自分が出しているごみを自分が処分すべきである」という主張についての確認をとることが有効に働く。

義務・責任としての考え方は「自分が処分すべき」となるが、提案に賛成する人間の動機としては、もっと積極的な考え(自分が関わることで環境を良くしていきたいとか)もある。これらを引き出すためには、早い時期からの働きかけが有効。

「基本的な考え方」についての合意を形成することは、具体的な方策についての合意を得ることよりも困難であると思われる。「考え方」については問わず、具体的な方策について妥協点をさぐるというのも一つの方法?

「不利のない条件を整える」という考え方は、個々の模擬店がどちらを選択するかは問わないが、全体として公平性を保つという考えである。個々の模擬店が環境に取り組むことの意味の有無を聞くのではなく、単位実全体としての責任をどのように考えるのかという議論の仕方の方が適しているともいえる。

- * アンケート結果では、「環境への負担を減らそうと努力する模擬店が不利な条件とならないようにする」という基本的な考え方への賛成は9割を超えた。この点については、ほぼ合意がとれていると考えられる。

「配置方法変更案」が否決された理由

・1:「基本的な考え方」で規定している以上に、変更案が参加模擬店に有利であると判断された。(不参加模擬店にとって不都合な点が多くあった。)

どこまで参加模擬店に有利にすれば、不利でなくなるのかという点については、明確な回答・判断基準は存在しない。その場を構成する人間による合意によってのみ基準が決まる。話し合いを重ねるより他にない。

- * アンケート結果では、有利になりすぎると判断した模擬店が27%、食堂付近に集める古とが適切・もっと有利にするべきとした模擬店が44%であった。「配置変更」という条件は、判断の分かれるものであったことが分かる。

. 2 : 方式として不十分な点があった。

会議の場で模擬店から出された反対意見は、それぞれもっともな理由を持つものだった。変更案が十分なものであったとは言えない。11月祭環境対策委員会と11月祭事務局の双方で合意された案が否決されたのであるから、模擬店の意見を汲み入れることが十分になされていなかったことが、不十分な提案となった原因である。

これは、模擬店との話し合いを十分に行うことによって解消される。環境対策案の作成にあたっては、模擬店との間で数回にわたって案を検討することが出来るようなテンポを立てるべき。

* 食器レンタルに参加する模擬店にかかる負担を解決する方法として、複数のオプションを提示しベストのものを選ぶという過程を経れば、合意に達しやすかったのではないか。(単一の方式についての採否は、「他に良いやり方があるのではないか」という積極的な模擬店を反対にさせてしまう。)

その他

・何がなんだか分からないうちに事がすすんでいた。
模擬店単位実がどのような場であるのかを認識しないままに会議が終わっていたのではないか？

3.2. 模擬店単位実行委員会のあり方

模擬店単位実行委員会での議事進行に関して

・提案を行ったものが発言できない状態で、案が審議される。
論議の中で明らかに間違っていて認識されている場合でも発言ができないのでは、まっとうな議論は出来ない。提出された反対意見を受けての提案の変更なども、その場で出来た方が決定までの時間を短くできる。提案者の発言が禁じられるというのは不合理。

模擬店単位実行委員会の決議方法に関して

・全会一致を基本とするには議論が不十分。
提案は全会一致で否決されたわけではない。提案が否決された際に、旧来の方式が踏襲されることが前提となっている。

模擬店の意思決定の場として

・事務局からの連絡を伝える場所という雰囲気強い。
・模擬店単位実行委員会において模擬店に何ができるのかということが模擬店に知らされていない。

3.3. 模擬店による意思決定を重視する意味

1 1月祭が自主的なものであるから

模擬店を行うことによって生じる問題については、その原因である模擬店が対策を講じるのが、自主的なあり方である。模擬店が対策案の作成に関わることは望ましい。

個々の取り組みではなく、全体としてどうしていくのかを考える必要があるから

「自主的」であることを重視する立場からは、「問題への対処は一つ一つの模擬店がそれぞれに考えればよいのであって、話し合いを行う必要はない」という意見もあるだろう。しかし、このような考えでは、複数の主体が関わりを持つ問題に対処することが出来ない。

環境対策の中には、他の模擬店にあまり影響を与えないもの（ペットボトルのかわりにパックのお茶を使うなど）の他に、複数の模擬店に影響が及ぶもの（模擬店の配置など）もある。こういった性質を持つ問題は、環境対策の他にもいろいろなものがある。

複数の主体が関わる問題があるときに何が起きるか、簡単な例を考える。銀行強盗を行う自由が認められれば、他の全ての人々が安全にお金を預け引き出す自由が侵害される。逆に、銀行強盗を行うことを禁ずることは、強盗の自由を奪うことにはなるが、他の全ての人々が安全にお金を預け引き出す自由を確保する。こういった問題に対しては、両者の意見の間の調整を行う必要がある。「ひとつひとつの主体がそれぞれに考える」のであれば、銀行強盗の自由を求める主体と安全な預金の自由を求める主体とがあったときに、両者は衝突しあい問題は解決しない。

このように複数の主体が相互に関わりを持つ場においては「自主的」という言葉は、「無責任に好き勝手をする」ということを意味しない。さて、それではどうするか。対処の仕方としては、模擬店での話し合いをせずに、誰かに決定を委ねる、あるいは他者の決定に従う、という方法もあるが、これよりは、模擬店の間での話し合いを行う方がはるかに自主的である。

複数の模擬店にかかわる問題への対処の仕方として、模擬店の自主性を重んじるのであれば、模擬店の間での話し合いが不可欠となる。

より効果的な対策の立案 / 実施が可能となるから

1 少数の人間のみで考えたのでは見落とししてしまう問題点を回避できる

95年度の対策案では、3.1. .2で記したように、不十分な点があった。これらは、模擬店が対策案の作成に参加することで回避できる。

2 「仕組み」をつくることにより様々な問題を扱うことができる

自分自身では気付いていなくても、知らされれば、その問題の重要性に同意し、対策をとることに賛成するという人もいる。（潜在した問題意識）

しかし、実際に何らかの対策をとるとなると、かなりの労力が必要とされる。特に、ひとつひとつの主体の取り組みを支える仕組みがない場合には、その主体が常に問題を意

識して行動することが必要となる。しかも、問題となることは、環境問題にかかわることだけではなく、様々なもの（同じ種類の食べ物を出す模擬店は出来る限り離れたところに出店できるようにしたい／ダミーサークルによる申込みを防ぎたい／）がある。模擬店を出店するにあたっては、普通に店を出すだけでも、考えるべき事／行わなければならない事があり、それだけの時間を割くことは困難である。

以上のように、問題意識がありながら、何も出来ないままということになりやすい。

そこで、ひとつひとつの主体の取り組みを支える枠組みを作ることを考える。このようにすれば、潜在している問題意識が表に出され、合意された中でよりすすんだ対策を行うことが可能となる。（四六時中考えていなくても、仕組みに沿うことで、合意した時点で考えたレベルの対策を行うことが出来る）個別の取り組みでは負担が多すぎるという問題が除かれ、いろいろな問題意識にも対応できるようになる。

集合的な意思決定によって、分散によるきめ細かな対応（ 1 ）と集約による効率化（ 2 ）とが可能となる。これらはそれぞれ、自主性の確保、多様性への対応につながるものでもある。

e. 来年度へ向けて

1. 食品容器部の目指すことの再確認

「食品容器に関連したごみを減らす方法を考える。」

「それが模擬店によって積極的に実行される条件を整える。」

の2つがやること。

前者については、今年度の取り組みの反省点から具体的な対策を、

後者については、「実行される条件」を決めるための意思決定のあり方の見直しと、「積極的」にかかわる模擬店の動機付けの明確化とをすることが必要。

2. 方式・システムについての具体的な対策

2.1. 食器レンタルについて

デポジット金については、課したところ・しなかったところで回収率に顕著な差はなかった。

食器の紛失を防ぐ、という点では、それほど気にしなくてもある程度回収できる。デポジット金回収の手間を嫌って参加していない模擬店もあるので、デポジット制をやめることも検討すべき。

中央キャンパスへの貸し出しについても、可能であることが分かった。

適当な皿がないという団体が多かった。特に、「どんぶり」関連の申し込みが多かった。他大学との共用など、貸し出せる食器を増やす努力をする。

独自に洗える食器を使っている団体にたいして、どんなサポートを環境対策委員会としてするのか？

2.2. エコプレートについて

エコプレートの回収方法の改善

ごみ箱の改良、（設置場所なども含めて）

2.3. 新たな手法の開発

食品容器部 エコプレート振り返り

文責；竹内 純

平成7年度 11月祭 エコプレート使用状況

使用日時；平成7年11月22日（前夜祭）、同23～26日

使用模擬点数；前夜祭3店、本祭9店、

（吉田グラウンド5店、吉田構内1店、中央構内2店、文学部教室1店）

使用メニュー；お好み焼き、湯豆腐、餅、たこ焼き、焼き鳥、フライドポテト、

フレンチトースト、唐揚げ、喫茶店、等

使用枚数；8.160枚（Lサイズ1.440枚、Dサイズ1.680枚、Sサイズ5.040枚）

回収枚数；2.300枚（28%）

目的

昨年食器洗浄を開始したが参加模擬店が少なかった。この原因の一つに、取り組みへの参加に手間が掛かりすぎる事があげられた。そこで、容易に環境への負荷の少ない容器を使ってもらう手段としてリレハンメルオリンピックで使用された澱粉食器が提案された。

この食器は使用法は通常の使い捨て皿と同じなので、参加模擬店の手間が省かれると考えられた。また、珍しいものであるため、模擬店はもちろん当日のお客にも環境問題を訴える機会も増えると考えられた。

中央生協祭りでの実験

澱粉食器はそのまま燃やしても、通常の使い捨て食器よりも燃焼エネルギーが低いので環境負荷が少ないのだが、さらにコンポスト化して循環を行うことでさらに環境負荷が減るという事である。そこで、同じやるなら回収して堆肥化するところまでしようということになった。

澱粉食器の堆肥化で危惧されたことがあった。それは堆肥化には完全に分別回収の必要があるのだが、それができるかどうかである。そこで、中央生協祭りで実験的に使ってみるということになった。

中央生協祭りでは、

会場が閉鎖的であったこと。

各ごみ箱に分別員を配置したこと。

があって完全な分別と高い回収率が確認された。

反面、

「食べられる皿」と宣伝したために澱粉食器を食べる人が多かった。

エコプレート代が高いので、正規の価格では通常の模擬店ではペイしない。

普通の人は相当宣伝をしても自分で分別して捨てることがない。

などの問題点も明らかとなった。

の問題について

エコプレートの取り扱い業者である住友商事の山本氏の話で、「エコプレートは食品として販売しているのではないので、『食べられる皿』という宣伝は責任を取りきれないので変えてほしい」と言われた。確かにその通りなので、その後は『エコプレート』で統一し、また「食品ではない」ことをはっきりと明示していくことにした。

ただ、「食べられる」というのはかなりインパクトのある宣伝なので、結局私は個人責任の範囲で皿を食べることで宣伝してしまった。

N F 当日では、食べられることを積極的にアピールしている模擬店はなかったようだ。

の問題について

通常の使い捨て容器が1枚5～10円なのに対して、エコプレートは1枚が30円以上もするので、模擬店が無理して買うことはまずないだろうと予測された。また、生協から事業として取り扱うならある程度のマージンが要求された。(とは言っても、環境問題に関わるので通常よりかなり低くてもかまわないのであったが...)

こういったことから、取り扱い業者の住友商事・パルプと製造業者の日世にはかなりの負担を強いることになった。ただし問題として、値段を下げて販売した場合、今後ずっとその価格で提供し続ける必要があるので値段設定は慎重に行う必要があった。

結局、業者側から通常の使い捨て食器と同じ額に設定することになった。Sタイプは1枚5円、L・Dタイプは1枚10円となった。

アンケートから

値段設定は十二分に低く設定してあったと思われたが、値段による参加模擬店低下が多く見られた。アンケートでは、1位「皿が不適切(34%)」に次いで、2位に「価格が高い(25%)」が不採用理由挙がっている。また、同じ大きさの皿と同じ価格にも関わらず、高く感じた理由は不明。

また、「同じ値段ならば、エコプレートの方が面白いから購入した」と言っていた参加模擬店もあった。

の問題について

エコプレートは初めての人や注意していない人は、通常の使い捨て容器と見分けがつかないので、ごみ箱を置くだけでは分別されないと考えられた(リレハンメルオリンピックでさえ分別率はそれ程高くなかったと聞いている)。とは言っても各ごみ箱ごとに分別員を配置するわけにもいかないので、基本的には模擬店で自分の店の前のごみ箱の分別を管理してもらうことにし、それを所定の場所(中央食堂北側)に持ってきてもらい、環境対策委員会で生分解性のゴミ袋に点検して詰め替えることにした。

また参加模擬点数が20店舗を超えた場合には、N F 事務局が公衆ごみ箱の分別品目に『エコプレート』を入れることになった。実際には条件を充たさなかったためにN F

事務局が設置することは実現しなかった。当日、日世の方からの提起でNF事務局の許可を取り環境対策委員会がエコプレート分別用のごみ箱を設置した。

参加模擬店でゴミ袋を持ってきてくれたところは、分別の趣旨を理解してもらっていたよで、詰め替えにおいてほとんど異物を取りのぞく必要はなかった(参加模擬店が管理しているゴミは、分別率が高かった)。しかし、エコプレート回収場所を中央食堂北にしたのは手間と管理の面で失敗であった。来年度からは吉田焼却上でゴミを一括管理すべきである。

逆に問題としてNF当日は人が流れてしまうので回収率は低く、他の模擬店のゴミ袋に混ざっていることが多かった。これらのものは焼却上に於いて日世の方々と環境対策委員でできる限り分別していた。回収率向上のための方法を検討する必要がある。

アンケートから

お客にエコプレートと発砲プラトレの違いは分かってもらえないようである。模擬店には積極的に説明してもらおうように働き掛けるべきである(客対応の時間が足りないという意見もあったが...)。エコプレートを使ってることを分かってもらえたお客さんは好意的であったようだ。

その他の問題点

エコプレートは高温湿気に弱いという欠点があり、汁気のもの(うどん、おでん、等)が出食できない可能性があった。環境対策委員会で実験して、お湯にはエコプレートは弱いので少しでも信用を落としてはいけないと判断し、汁物の出食は不可能ということで統一した。これは、寒い時期に行われるNFで汁物をだす模擬店が多いことを考えると大きな欠点となった。

アンケートより

熱でやわらかくなったという苦情もあったので、予め性質をしっかりと公報しておく必要がある。

広報宣伝

エコプレートの宣伝は2種類あった。

模擬店に対して使用を求める。

お客に対してエコプレートの特徴を知ってもらう。

に関しては以下のことが実行された。

- ・ 7月の生協1回生総代定例会でのエコプレートの宣伝説明

約100店ある模擬店の内、1/3程は抽選で優遇される1回生クラス模擬店である。そこで、総代を通じて1回生クラスに早くからエコプレートをアピールするために、定例会の時間を一部割いて宣伝と説明を行なった。実物を持ってきていたので、多くの総

代に興味を持ってもらえた。(定例会アンケートより)

ただ、事前に話をよく詰め切れていなかったために説明内容が散漫になってしまった。また、総代個人は興味を持ったが、クラスでは否定されてしまうといったケースがよくあった。(12月定例会での多数意見)

クラス回りなどをして、クラスでの合意形成に直接働き掛けることが求められる。

・らいふすてーじ10月号

環境問題を考えてもらう記事であり、エコプレートだけを目立たせる内容ではなかったため、エコプレートの印象は希薄な記事となった。参加模擬店増加につながったようではなかった。また、分別回収を呼び掛けるような内容でもなかった。

こうなった理由の一つに、記事を書いている当時(9月中旬)はまだエコプレートの具体的価格などが決まっていなかったことや、システムが明確に決まっていなかったなどの立ち上げの遅れに原因があった。

・第1回模擬店実行委員会での宣伝説明

会議の場が大勢がごった返して話を聞けるような場ではなかったために、プレゼンの印象も薄くなったしまった。終了後に興味を持った人にサンプルを配ったが、あまり多くの人の関心を得られなかった。

失敗したのは丸分かりでだが、原因不明。

・各サークルの模擬店担当への電話説明案内

電話掛けの徹底が為されていたかどうかは疑問。また、模擬店の代表者に接近する方法としてエコプレートの紹介だけでなく、何食程度の出食計画をたてれば良いのかなど、模擬店出店にあたっての疑問に答えることもした。しかし、環境対策委員会のメンバーが対応しきれない質問もあった。このようなアプローチの仕方をするのであれば、ある程度の情報を把握しておく必要があった。

しかし、これを契機にサークル内で検討がなされている。(アンケートでは34%が一度は話し合いをしている。)

に関しては以下のことが実行された。

・NF当日の立て看板による宣伝

エコプレート使用店の案内立て看板・参加模擬店での分別回収を呼び掛ける捨て看板を制作。

エコプレート自体のシステムを説明する立て看を作り忘れたため、看板だけではエコプレートとは何かが分からなかった。

・マスコミによるエコプレートの認知度の向上

リレハンメルオリンピックの時に、澱粉製の環境に優しい食器としてテレビでかなり紹介されていた。また、中央生協祭でのエコプレート使用の記事が京都・毎日・読売な

どの新聞に掲載された。

このため結構多くの人知っているものだ錯覚していたが、実際には案外とエコプレートを知っている人は少なかった。

N F 全学実行委員会との取り決めから環境対策委員会が単独でプレスリリースをすることができないこともあり、このN Fでの取り組みが事前にも事後にも報道されることはなかった。

学園祭を特集した雑誌などで宣伝しようという話もあったが、実行に移す余裕はなかった。

総合評価

食器洗浄よりも手間が掛からないので、取り組みに参加しても模擬店の負担は実際に通常に比べて、分別以外の手間は増えてはいなかった。模擬店からはエコプレートは使い勝手は悪くはないという評価が寄せられた。

使用模擬点数は、13店舗に留まった。これは食器洗浄(6店舗)よりも多いのだが、目標の20店舗は大きく下回った。参加模擬店が少ないことで、エコプレートのお客への認識が低く、低回収率を招いたり、分別を模擬店が手間を掛けて管理する必要が生じた。参加模擬店は、分別率が高かったように環境に対する意識は高かったようだ。ただこういった模擬店も自発的にお客に対して、環境問題という側面から自分の店とエコプレートを売り込む光景は見られなかった。残念ながら、物珍しさによる環境問題のアピールはあまりうまくはいかなかった。

今回の取り組みは、参加した模擬店に対してだけの環境対策提案に留まり、またお客に対する環境問題提案では大きな成果は得られなかった。

エコプレートをオープンスペースで使用し、堆肥化まで持ち込むという実験という意味においては、一定レベルのデータを収拾できたし、また問題点も明らかにできたので今後のエコプレート普及に役立つ事例であったと思われる。

エコプレートの使用は今年度で初めての取り組みであるので様々な問題があったが、来年以降からは年々と知名度と製品への信用を得ていくことができるだろうと思われる。

- 2 . 廃棄物処理部

a . ' 9 4 年 度 N F は どう だ っ た の ?

《ゴミ処理方法》

一般企画（模擬店、教室展示、グラウンド企画 e t c .） ...

- ・ 燃えるゴミ・飲料缶・ビン・その他の4分別
- ・ 廃油回収（揚げ物などを出す企画に対して）

各学部（中央構内の学部＝文・教育・経済・法のみ） ...

各学部の処理では再資源化されない物は吉田に運んでくれるようお願い

客用ゴミ箱（事務局が管理）

- ・ 燃えるゴミ・缶・ビンの3分別
- ・ 缶・ビン用は、丸い穴の開いたふたを付け、混入を防いだ。

ゴミ集積所（吉田焼却場）で分別指導を行った。（燃えるゴミに缶・ビンが混入していないかチェックし、入っていれば、こちらで取り出すか、運んできた人自身に取り出してもらった。）

《問題点》

@燃えるゴミへの缶・ビンの混入

原因は、

- ・ 分別が周知されていなかった。
- ・ 模擬店の店頭につるすゴミ袋は1袋のみだった。（可燃、缶などの区別なし）
- ・ 理性に訴えたのみであった。

などが考えられます。

@段ボールの多量の廃棄

体積ではかなりの率を占めます。片付け時に、大量に出されるので ' 9 3 年度の環境調査では把握しきれませんでした。

@公衆用ゴミ箱の分別の不徹底

原因は、

- ・ ゴミの表示がわかりにくかった。
- ・ 缶・ビン用のふたの穴は、大きめで他の物の混入を防げなかった。

などが考えられます。

《提案（ ' 9 5 年 度 N F に 向 け て ）》

分別がきちんと行われるように、

@早くからゴミ処理方法を決め、周知させる。

@各企画に燃えるゴミ・缶・ビンの3種類のゴミ袋を配布。

@段ボールの分別

@他の価値尺度への転換（経済的手法など）

@公衆ごみ箱の改善（表示を大きくする。缶・ビン用の穴を小さめにする。）

そのために

@事務局と協力を深める。

* それ以前に缶・ビンを買わないように勧めることも大事でしょう。
といった提案がなされていました。

b . '95年度での対策案の成り立ち

[一般企画のゴミ]

6 / 15 (木) 第1回(提案のみで決議なし)

- ・ 可燃ゴミ・缶・ビン・段ボール・廃油の5分別
- ・ 袋配布パターン数例、模擬店店頭のゴミ袋について数例
全部透明または半透明にすればいい。

6 / 29 (木) 第2回

- ・ 可燃・缶・ビンは透明ゴミ袋に
- ・ 透明ゴミ袋は
各企画で購入 or 当委員会で購入し配布
ゴミ処理費用の自己負担

各企画で

- ・ 透明ゴミ袋以外で持って来た場合、
受け付ける or 受け付けない

一応、受け付けて透明ゴミ袋を販売

- ・ 当日、ゴミ集積所で分別指導

7 / 13 (木) 第3回

- ・ 5分別 + 不燃ゴミで6分別

[公衆ゴミ箱]

6 / 15 (木) 第1回(提案のみ)

- ・ 表示を明確にし、缶・ビン用のふたの穴を小さく。

7 / 13 (木) 第3回

- ・ 可燃・不燃・缶・ビンの4分別
- ・ 分別率向上のための方法検討

10 / 24 (火) 第4回

- ・ 不燃ゴミスペースを可燃ゴミとすることを検討

[エコプレート使用に伴うコンポスト化]

6 / 15 (木) 第1回(提案)

- ・ でんぷん皿・割り箸のコンポスト化

- ・ 使用し分別した場合、コンポストーションに持ち込む。処理費用は学生部に負担させることができるだろう。(理屈上は)

7 / 13 (木) 第3回

- ・ 使用する場合、専用のごみ箱を設置(場所・ゴミ箱の形などについては後ほど検討)

10 / 24 (火) 第4回

- ・ 模擬店店頭に生分解性ゴミ袋を設置
- ・ 使用量多の場合、公衆ゴミ箱の分別にエコプレートを加える
- ・ エコプレート集積所 = 中央食堂スロープ下
- ・ コンポストーションへ運ぶ前に分別確認
- ・ 割り箸をエコプレートと混ぜない。

[各学部のゴミ処理(本部構内のみ)]

6 / 29 (木) 第2回

- ・ 各学部にあわせて検討(再資源化されない物《例えば、缶・ビン・段ボールなど》は吉田へ運んでもらうようお願い)
- ・ 廃油回収

c . '95年度NFで実行したこと

< 事前準備 >

前期：環境保全センターで各学部の廃棄物処理に関するデータ入手(廃棄・再生利用量、缶・ビンの処理業者)

夏休み：生ゴミたい肥化の意義の調査

9 / 25 (月): 文学部企画に“ゴミ処理マニュアル”を配布・説明(参照... . 参考資料)

10月：前夜祭模擬店説明会で“ゴミ処理マニュアル”を配布・説明(文学部と同じ内容)

10 / 17 (火): 学生部へお願い

- ・ '94年に引き続き山内工務店(缶・ビン・段ボールを再資源化する業者)に引き取ってもらうこと
- ・ でんぷん皿コンポスト化費用の負担

10 / 18 (水): 経済学部11月祭中間実行委員会に“ゴミ処理マニュアル”を渡し、協力をお願い(法・教育学部11月祭実行委員会とは連絡取れず)

10 / 31 (火): 事務局へ公衆ゴミ箱について提案(モデルといっしょに)

強度と手間が問題となり、却下

穴を開けたベニヤ板でふたを補強する案で合意

11 / 1 (水): 模擬店単位実行委員会第3回で“ゴミ処理マニュアル”を配布して説明
(参照... 参考資料)

11 / 8 (水)頃から: シフト表作成

11 / 17 (金): 一般企画実行委員会にて廃油回収の呼びかけ・エコプレート使用模擬
店に使用後の処理に関する説明

11月中旬: 分別指導用腕章作成

11 / 22 (水): 分別指導マニュアル作成

<対策案どこまで実行できたか>

[一般企画のゴミ]・・・特に変更なし

廃油回収の方法: 1. 油を使うことを電話で知らせてもらう。

2. 23日朝、回収St (留学生センター内)に容器を取りに来てもらう。

3. 油を入れたら、回収St .に運んでもらう。(吉田構内...吉田
グラウンド、中央構内...留学生センター)

分別指導の方法: 備品...腕章、ビニール手袋

1. きちんと分別されているかcheckし、されていない場合、こ
ちらが取り出すか、企画自身にとりだしてもらう。

2. 透明ゴミ袋でない場合、購入を勧める。

[公衆ゴミ箱]

場所により4分別・3分別(不燃を含めるか含めないか)は異なっていた。

[エコプレートの処理]

・使用模擬店は9店と少なかったため、公衆ゴミ箱のエコプレート用は作らないこと
にした。しかし、分別率があまりにも低かったため、24日から設置した。(エコプ
レート用と大きく表示し、実物を貼り付けた。)

・模擬店店頭のゴミ袋は生分解性ではなく普通にしました。(分別確認の時に詰め直し
た方が能率がいいと考えられたので。)

[各学部の処理]

・文: NF当日は学部焼却場が閉鎖されるので全て吉田焼却場に運んでもらうように
お願い(一般企画と同様)

経済: NF当日も平常通りらしいので、再資源化されていない缶・ビンのみ吉田に
運んでもらうようお願い

法/教育は連絡が取れなかった。

・法経館北西側焼却場はNF期間中は閉鎖されるのに、ゴミが運び込まれて苦情が出
ていたらしいので、24日に法経館と教育学部の企画に“これから出るゴミは吉
田焼却場に運ぶように”お願い&透明ゴミ袋販売をした。

<当日作業>

23 ~ 26日

8:00からエコプレート分別確認(3・4人)

昼間：模擬店で透明ゴミ袋を使用していない店に売って歩いた。

16：00から・吉田焼却場にて分別指導(5・6人、環境調査のゴミ量調査(ゴミ袋カウント)と同時に行った)

・エコプレート集積所にて分別指導

(25日は組成調査のサンプリングのため、分別指導はお休み)

27日

8：00からエコプレート分別確認

9：00から吉田焼却場にて分別指導

d . 取 り 組 み の 評 価

[全体として]

分別にしる透明ゴミ袋にしる(他の部局の活動にもいえることだが)達成率が低いのは、宣伝不足が主な原因である。

宣伝不足となった理由

- ・分別・透明ゴミ袋については模擬店単位実行委員会で2回、廃油回収については一般企画実行委員会と模擬店のそれぞれ1回ずつお知らせしただけだったのでインパクトが小さかったと思われる。

- ・委員会に出てくる企画担当者は知っていても、他の人には伝わっていない。

[分別に関して(可燃、不燃、缶、ビン、段ボール、そしてエコプレート)]

全体的に見るとまだまだ。原因・周知不徹底・分別の区分がわかりにくかったと考えられる。(生ゴミが不燃で、プラスチックが可燃であること。プラスチックトレイとエコプレートの見分けが難しいことなど)

[分別指導について]

効果があったとする意見となかったとする意見がある。これは感覚的な判断だから、どちらが正しいとも言えないが、定量的判断を下すものとして環境調査から求めた缶の分別率がある。92%とかなり高いが、可燃に混入した缶は8%といえども個数に直すと約2000個にもなる。1日ざっと500個の缶を5・6人の分別指導員で取り出すのだから約100個/日・人となり、しんどいという声があってもおかしくない。

しかし一方では初日と比べて3・4日目の方が缶の混入数が少なくなってきたと言う声もあった。事実、最終日頃になると「分別できてますか?」と聞く前に「ちゃんと分別しましたよ。」と言って持ってくる人もいて、喜ばしく感じた。段ボールについては、可燃と一緒にして(細かくちぎって)持ってくる人が多数いて、取り出してもらった。夕方近くになると分別率も上がるが、翌日になるとゴミを出す人が変わってしまうからか、分別率が下がるということがしばしば起きた。

[廃油回収について]

- ・容器を毎日交換するものと思った企画がいたり、システムの認識に混乱が生じてしまった。原因・システム説明の際、明確にしていなかった。「容器に油を入れたら最終日または片付けの日に回収St. に運ぶ」というべきであった。

- ・缶が確保できたのはよかったが、ろうとがなく、急きょ更紙で簡易ろうとを作った

が使いにくかったに違いない。

- ・集めた後どうするか分からないという声もあった。(確かにゴミ処理マニュアルのうち書いたものと書いてないものがあった。)

[透明ゴミ袋について]

- ・透明ゴミ袋にしたこと自体は分別確認がし易いという点で評価できる。実際に薄暗い中で作業していると半透明でも見にくいのである。
- ・これも宣伝不足だったため初日など透明の方が少なかった。(全体の1 / 4くらい) 分別指導で購入を勧めたり、模擬店に売りに行ったりした成果が、最終日には1 / 3以上になっていた。

[公衆ゴミ箱について] (参考資料、模擬店地図 参照)

比較的よく分別されていたゴミ箱

- ・吉田グラウンド南西...ここは洗える皿やエコプレート使用模擬店集中地帯である。使い捨て皿のゴミが減った分、ゴミ箱があふれにくいためだろうか。
- ・中央構内正門前...中央構内の他の場所と比べて人の過密度が低いためだろうか。

分別されていなかったゴミ箱

- ・特に吉田グラウンド南西...ここはお祭り広場(グラウンド)にはいってくる人で最もごった返している所である。人が多い所にはゴミも多くなり、ゴミ箱があふれていれば空いている所にいれてしまうので、混ざってしまう。
- ・中央構内...一般企画のゴミは吉田焼却場に運ぶことになっているが、中央の模擬店からは遠いため、前日のゴミを朝、公衆ゴミ箱に入れるということがあったようだ。
- ・常設のゴミ箱(N F 期間外でも設置されているもので、 N F 中は事務局の管理下に置かれる。) ...区分がなかったので(1 種類のみ) 分別しようにもできなかった。

[エコプレートのコンポスト化について]

コンポストーションでたい肥化できたのは製造会社の日世さんのお陰であることはいうまでもない。この場を借りてお礼を言いたい。日世さんの調査結果からもわかるように、エコプレートの分別率はかなり悪かった。模擬店の店頭のゴミ袋や公衆ゴミ箱への混入が見られた。エコプレート使用模擬店の店頭のエコプレート用の袋だけでは、食べ歩きに対処できなかったのだ。2日目から中央構内3ヶ所にエコプレート用公衆ゴミ箱を設けたが、使用模擬店数がもっと多ければ、より多く置くことも可能だっただろう。模擬店店頭でのエコプレートの回収率が悪かった原因の1つに、分別する意義が分かりにくかったことが挙げられる。対策案通りに生分解性ゴミ袋を使っていれば、その後たい肥化されるということも伝えやすかったかもしれない。

[各学部の処理について]

法経館北西側焼却場からのゴミを運び込まないようにという注意はまさに痛いところを突かれた。そこは、連絡の取れなかった法・教育学部から最も近い焼却場だった。なんとか連絡をとって事前にゴミ処理マニュアルを配布できれば未然に防げたかもしれない。

e . 来年へ向けて

前項で述べた反省点を踏まえて来年へ向けて提案します。

[全体として]

企画担当者以外にも広く宣伝していく方法の検討が必要だろう。具体案としては、生協の広報宣伝手段をよりうまく利用する。(らいふすてーじに加えて、食堂の三角柱など)

また、ゴミ量全体を減らすために...量を減らそうと思わないのは、ゴミを出すことに對して責任を負わせていないからで、責任を負わせるしくみを作る。(たとえば、ゴミ袋一定枚数以上は有料とする、焼却を手伝わせる、など)

[分別に関して]

- ・分別の区分を示した表を初日の朝、模擬店に配布する。
- ・焼却場に大きな看板を立てる。

[公衆ゴミ箱]

- ・分別の区分を分かりやすくするために、ゴミ箱の後ろに実物を貼り付けたボードを立てる。
- ・常設のゴミ箱の隣に缶・ビン用も置くべき。
- ・ゴミ箱の配置を事務局と人の流れ・模擬店の種類などを考慮に入れて検討する。そしてチェック体制を強化し(初日に調査部隊を出す、見張りを立てるなど)状況に応じて配置替えをする。

[エコプレートのコンポスト化のための処置]

- 回収率を上げるため、
- ・エコプレート用ゴミ袋・箱を増やす。
 - ・デポジット制度を導入する。

[各学部の処理について]

連絡の取れない学部がないように、何とか早めに手を打つ。

- 3 . 環境調査部

a . '94年度NFはどうだったの？

a - 1 ゴミ量調査

ごみ袋の数を、NF 4日間中、二日カウントし、残りの二日は燃焼時間から推定した。50袋程度のサンプルを無作為に取り出し、何袋かまとめて持って体重計に乗って量り、重量平均を求めた。

<反省点>

ゴミ袋のカウントについて、燃焼時間から割り出すのはあまりに誤差が大きい。

a - 2 ゴミ組成調査

調査前日に、収集場所に運ばれてくるゴミを30袋サンプリングし、サークルのboxに保存しておきます。最終日(11/23祭日)の真昼間に、人通りの多い正門脇で行いました。

ビニールシートの上に、ゴミ袋の中身を開け、品目ごとに分けます。重量、およその体積を量り、割合を求めました。反省点として以下のことが挙げられています。('94年度環境対策委員会報告書)

<反省点>

- ・調査方法の改善
- ・量りを0.5kg単位から0.1kg単位にするべき。
- ・PRが足りない。

b . '95年度NFの対策案の成り立ち

b - 1 ゴミ量調査 @

ゴミ袋のカウントを、NF 4日間毎日行う。

昨年は活動に関わる人が少なかったが今年は協力してくれる人が多かったので毎日カウントすることが可能になった。

b - 2 ゴミ組成調査

反省点を踏まえ、次のように改善することにしました。

- ・量りを0.1kg単位のものを用意する。
- ・カウント可能なものは数え、体積も量る。
- ・元委員長のアナウンスのもとで行う。

b - 3 サンプル店調査

アンケート調査によるゴミ組成予測は、アンケート回収率の低さと正確なデータが期待できないため、とりやめ、それに変わるものとしてこの調査が提案されました。

<主旨> 食品容器部の取り組みによりゴミがどのように変化するかを調べる。

<方法> 1) 1洗える皿使用店 2エコプレート使用店 3一般店のそれぞれのゴミを組成調査前日、受け取り保管する。
2) 公開ゴミ組成調査の最後に行う。

c . '95年度NFで実行したこと

c - 1 ゴミ量調査

<主旨> ゴミ減量対策によって、ごみの量がどのように変化したかを調べる。

<方法>

[可燃・不燃ゴミ]

吉田焼却場で、ゴミ袋をカウントする。_____ゴミ量を求める。
重量調査でゴミ一袋当たりの平均重量を求める。_____

- ・ゴミ袋のカウントをしながら同時に分別指導を行った。
- ・ゴミ袋のカウントは、調査係6人がそれぞれ分別指導したゴミ袋をカウントした。カウントは、NF期間中毎日した。
- ・3日目に重量調査のためのサンプリングをした。無作為で50袋をサンプリングし、2名ほどで、その重量を調べ、目盛りを入れたバケツで体積を調べ、その平均をとるという作業をし、残りの4名がカウントをした。なお、サンプリングするゴミ袋については、分別指導を行わなかった。

[缶・ビン]

NF後に焼却場の缶・ビン捨て場で、それぞれの体積を調べる。

それぞれの単位体積当たりの重量、個数を調べる。

缶・ビンの総重量、総個数を求める。

- ・缶・ビンの体積の求め型は、缶瓶捨て場の容量を巻き尺で量り、推定する。
- ・実際は、引き取り業者に重量を教えてもらった。

<備品> カウンター、ビニール袋、量り、目盛りを入れたバケツ、巻き尺、腕章

c - 2 ゴミ組成調査

<主旨>

ゴミ減量対策によって、ゴミ組成がどのように変化したか調べるものです。どうせやるなら公開にして、ゴミの多さや使い捨て容器類の多さを人々に訴えようと最も目立つ正門脇で行いました。

<方法> 1. 調査前日(25日)に、サンプリングしたゴミ袋30袋を保管。
2. 最終日(26日)の午後、中央構内正門横で、公開ゴミ組成調査を行った。

3. データ整理

- < 備品 > 0.1 kg 体重計 (重量測定用) 1つ、ポリバケツ (体積測定用) 2つ、ポリバケツ (分類用) 3・4つ、データシート・筆記具、ビニールシート2枚、ブロック塀 (ビニールシート押さえ用) 数個、ビニール手袋6・7つ、ゴミ袋数枚 (分類用)、腕章 (NF環境対策委員会と記名) 6・7つ、トラメガ (アナウンス用)
- (司会1名、作業6～7名)

c - 3 サンプル店調査

準備不足のため、対策案どうりに行えなかった。

- < 方法 > 最終日に、洗える皿使用店 (Summer Times 焼き鳥)
エコプレート使用店 (B.Y.U. 焼き鳥)
一般店 (時刻表研究会 焼き鳥)
にゴミ袋のカウントをお願いした。

d . 取り組みの評価

d - 1 ゴミ量調査

- < 可燃・不燃ゴミの重量についてのデータ >

表3 - 1 可燃・不燃ゴミの重量

- ・ '93年度、'94年度は燃焼時間やアンケートの結果からゴミ袋の数を推定しているのでデータが正確とは言えないので、ゴミ減量対策の効果があったのかなかったのか分からない。来年、今年と同じ調査を行って、そこで初めてゴミ減量対策の効果がわかるのではないのだろうか。

- < 缶・ビンについてのデータ >

表3 - 2 缶・ビンの重量・体積

缶の分別率と量 (考察は - 2 . 廃棄物処理部 d . 取り組みの評価を参照)

缶の総量	9 2 8 kg (分別されていたもの+分別されてなかったもの)
分別された量	8 5 0 kg
分別率	$8 5 0 / 9 2 8 = 0 . 9 2 = 9 2 \%$

d - 2 ゴミ組成調査

評価を調査方法と調査結果に分けて考察します。

< 調査方法の評価 >

- ・公開ゴミ組成調査はずいぶん精度が上がった。データシートの使用もデータ保管に役立ったと思われる。
- ・サンプル店調査は、準備不足のため、対策案とはほど遠いものになってしまった。組成調査を行ってれば、より詳しく分かっていただろうが、大まかな量を把握するのであれば、今回の方法でも十分有効な手段と言える。

< 調査結果の評価 >

[ゴミ組成調査]

表3-3 ゴミ組成調査結果 (p38) について

@全体的にそれ程変動はないので、3年間('93、'94、'95)を比較するのに十分有効なデータと言える。

@一貫して減少傾向にあるのは、

プラスチック類の買い物袋・ゴミ袋 (重量%:11.0 6.2 3)

ペットボトル (重量%:5.0 3.8 1)

木材 (重量%:10.2 8.6 8)

金属類 (重量%:6.1 5.7 3)

である。

- ・ペットボトルの減少は企画申請時配布のビラやゴミ処理マニュアル(「ペットボトルを減らすためお茶は作って持って来よう! 煮出し・水出し茶パックは中央生協購買部で売っています。」と呼びかけた。)の効果が表れたと思われる。実際、当日の模擬店のうち、飲み物を売っている店ではペットボトルよりもやかんの方が多く見られた。茶パックの方が、安く上がることもあり、模擬店がこちらを選びやすかったと考えられる。
- ・金属類の減少は、ゴミ集積所での分別指導の効果が表れていると考えられる。

@逆に一貫して増加傾向にあるのは

・紙皿 (重量% ; 1.4 1.9 2.0)

しかしこれは他の物の減少による影響とも考えられる。

[サンプル店調査]

売り上げ数 300 食あたりに概算すると

表3-5 サンプル店調査 (300食あたりに換算)

表3-3 ゴミ組成調査結果

表3-4 サンプル店調査生データ

一般店の売り上げ数はN F 後数日経てから企画者の細い記憶の糸をたどって得たデータなので、かなり信頼度が低い。やきとりというメニュー、また最終日はたくさんの客が来るということを考慮すると125食は少なすぎる。よって表3 - 5は信頼のおけるデータとは言い難い。

しかし、表3 - 4や実際の当日の様子を見ても、一般店より、取り組み参加模擬店の方がゴミ量が少ないのは明らかである。

d - 3 . 生協共同購入物品調査

表3 - 6 生協共同購入物品

表3-6 生協共同購入物品について

@減っているもの

'93～'95の3年間通じて、減少傾向にあるのは、プラスチックトレイ、プラスチックコップ、紙コップ、ペットボトル、つまようじである。

・プラトレイは、去年の半分以下である。取り組みの成果が表れたとも考えられるが、組成調査では減少していないことや、他の店でも買うので、一概に言えない。

・ペットボトルは、驚くべき事に0である。他の店で買ったかも知れないが、組成調査でもペットボトルは減少していることから、使用量が減っているのは明らかとみていいだろう。ペットボトルのかわりに茶パックの使用を呼びかけた成果が表れたと考えられ、評価できる。

@増えているもの

3年間通じて増えているものは、紙トレイ、割りばし、プラスチックスプーン・フォークである。

・紙トレイは、組成調査でも増えていた。模擬店の食種の変化が原因だろうか。

・割りばしは、組成調査では減っていたので、増えたと断定はできない。

ゴミ袋が去年と比べて増えたのは(去年の5倍以上)今年から新しく透明ゴミ袋の使用を呼びかけたためと考えられる。

e . 来年への提案

e - 1 ゴミ量調査

・今年行った調査を、引き続き行うことが大事です。

e - 2 ゴミ組成調査

・'95年度までのデータと比較するために、来年度以降も同様の調査を行うこと。

・PRを十分に行うこと。

・データを使って、取り組みによりペットボトルが減ったことを示し、よりいっそうの減少促進。

e - 3 サンプル店調査

・売上数をしっかり把握する。

・袋の重量も量れば精度が増すだろう。

-4 広報宣伝部

a . クイズラリーのねらい

環境対策委員会の取組を成功させるのは、11月祭当日の参加者へのごみ分別などへの理解ある協力が不可欠であるという認識があり、そのために効果的にたくさんの参加者に対してアピールする手段を模索していた。

94年度は教室展示ならびにお祭り広場での劇の上演を行った。それぞれともに、やっている本人達は中身の質に満足するものが製作できたが、前者は空間的に、後者は時間的に限られた人間しか目の当たりにすることができないという制約条件があった。95年はこれらを克服することが広報宣伝部に求められていた。

b. やったこと

クイズラリー。お祭り広場南側焼却炉前、総合人間学部正門前、環境ネットワーク4Rの会の展示場所(法経館内)にクイズを記した立て看板を設置し、3カ所のクイズ(環境対策委員会の取組に関連した内容)に答えることによることによって景品(皿貸し参加ならびにエコ・プレート使用模擬店の中の有志から提供いただいた食べ物のただ券または割引券)を差し上げることにより、11月祭のごみ問題の実態を知ってもらい、あわせて環境対策委員会の活動を理解してもらおうというコンセプトで行われた。立て看板は実行委員長作画による優美なバラの絵で飾られ、そこに解答用紙をつるす形で作られた。景品引換所は環境ネットワーク4Rの会展示会場内に設けられた。

c. 結果

景品を引き替えに来た人の存在は確認されないまま、クイズラリーは無惨な失敗に終わった。

d. 失敗の原因

様々な要因が考えられるが、三カ所の立て看板全部まわってやろうという奇特な人があまりいなかったらしいこと、無人の立て看板に近づく人が少なかったらしいこと(人間を配置してクイズを呼びかけられたならば、もう少し効果があったものと思われる)、設置場所が悪い(特にごみ焼却場横)、一番人通りの良いはずの総合人間学部正門前の立て看板が、ひもや針金で結わえずにただ置いてあったため倒れて、わたしが気付くまで放置されていたこと(設置を事務局に頼んだのが間違い)などが思い当たる。

e. クイズラリーの反省と広報宣伝に関する来年度への提案

今年のように無人状態でアピールすることを考えず、環境対策委員会と学園祭に来た人々との直接的コミュニケーションがはかれる形での宣伝方法が望まれる。また、準備にあたって95年度のように土壇場で方法を決定するのではなく、より早い段階でアイデアを集めてよりたくさんの人間がかかわって企画することも必要かと思われる。

ところで、広報宣伝には上に述べたような会場内の宣伝以外に、メディアを利用しての事前の宣伝周知がある。94年度は、7月頃に新聞を通じてごみ削減の告知などをしたが、95年度は結果的に、プレス・リリースは行われなかった。もっとも、学生に対するアピールという点では、新聞という手段の有効性は疑わしい。今後、京都大学単独、あるいは他大学、「きゃんぱすえころじー実行委員会」(エコ・リーグ(全国青年環境連盟)の全国プロジェクト)などと提携しての、若者向け(爺臭い言い方だが)情報誌などでのアピールについても検討する余地がある。

組織運営について

－ 1. 11月祭環境対策委員会

－ 1-1. 11月祭環境対策委員会とは？

規約文(参考資料)には、「11月祭全学実行委員会は、これまでの11月祭が及ぼしてきた環境への負荷が軽微でないことを認め、総合的な環境への負荷の削減のための具体的な対策を講じる」そのために「11月祭環境対策委員会は、全学実行委員会に対して... 11月祭の環境対策案を提案する義務を負う」とあります。また、「11月祭環境対策委員会は、その業務を11月祭事務局と共同して行うことができます」。

今年度は昨年度の反省点でもあった、「事務局との協力関係」を築くことに力を入れました。連絡を互いに密に取り合い、事務局の方が11月祭環境対策委員会の会議には必ず出席していただきました。

また、模擬店単位実などの討論を円滑に進めるために、事前の打ち合わせをできる限り行いました。

－ 1-2: その他の団体

しかし、NF期間中に、洗える皿の貸し出し、エコプレートの販売、ごみの分別指導、ごみの組成調査.....といったことは、すべて11月祭環境対策委員会、事務局だけではできません。さまざまな団体との協力が必要不可欠になってきます。

具体的には、今年は以下の様になります。

- ・各企画との連絡
- ・広報宣伝(パンフ、立て看など)

以上事務局

- ・洗える皿の貸し出し/洗浄
- ・エコプレート販売

以上生協

- ・ごみの組成調査
- ・ごみの分別指導
- ・広報宣伝(立て看板作成など)

以上環境サークルなど

この様に、11月祭環境対策委員会の業務は、幅広い団体との協力によって成り立っているわけです。

－ 2: 連絡体制

－ 2-1: NF事務局

昨年の反省により、お互いに協力体制を作ることで、意見の一致をみ、連絡をできるだけ密に取るようにしました。(当委員会の準備会・本会議には局長(、全学実行委員長)は必ず出席してもらった。)

－ 2-2: その他の団体

11月祭環境対策委員会のスタッフに環境系サークル(環境ネットワーク4Rの会)、学生委員会(生協)、環境に関心のある人(一般参加)といったメンバーで構成されてい

たため、協力が必要となる団体へは、そのメンバーが行うということに暗黙の了解となっていました。

－ 3 : 問題点

－ 3 - 1 : 事務局に関して

- ・ 模擬店単位実行委員会第 1 回 での提案の事前の打ち合わせが十分でなかった。
(詳しくは - 1 . 食品容器部参照)
- ・ ごみ箱の形状について十分な対策案作りができなかった。

－ 3 - 2 : その他の団体に関して

1 1 月祭環境対策委員会がその他の多くの団体との協力が必要になっているが、協力してもらう際には「今、1 1 月祭環境対策委員会では何をしているのか？」ということを知ってもらい必要があります。

今年の問題点としては、「今、1 1 月祭環境対策委員会では何をしているのか？」ということを知ってもらい前に、「1 1 月祭環境対策委員会の行っていることに興味を持ってもらう」ということがあまりできませんでした。やはり興味がないと、いくら報告をしても聞いてくれません。いかにして興味を持ってもらうかがポイントだと思います。

－ 3 - 3 : その他の問題点

1 1 月祭環境対策委員会のスタッフの数が足りていたかという.....。各部局に議論をするのに十分なスタッフがいればよいのですが、今年は各部局の責任者を決めてしまうと、もうスタッフが残りませんでした。そのため、各部局の内容は各部局の責任者に任せすぎた傾向が今年がありました。各部局の内容も責任者が一人で創っていくよりも適正な人数で創っていく方が能率の面でもいいですし、アイデアがその分広がっていきますので、他の新しい取り組みができたかもしれません。

－ 4 : 改善案

－ 4 - 1 : 事務局

- ・ 普段より信頼関係を築くべく、お互い努力する。
- ・ 環境対策案に関わる事務局内部の会議・実務に参加するようにする。

－ 4 - 2 : その他

- ・ 定期的な会議を持つ

会議に参加したい人がいた場合、いつ会議があるのか分からなくては、会議に参加できません。また、各部局が、どの程度内容が進行したのか？ どんなことを考えているのか？ といったことを定期的に報告することにより、他の団体の人の中に興味を持つ人をつくっていくことができます。

- ・ 興味を持った人を巻き込んで活動をする

1 1 月祭環境対策委員会のスタッフは今年は議論をしたり、さまざまな作業をするのにあまりに少なすぎたので、何かにつけて苦労をしました。今後は活動を広げていくためにも、関心のある人を掘り起こし、巻き込んで活動していくことが大切です。

そして、各部局の企画・内容を考えていく人が考えることは、その分新しいなにかができる可能性を秘めていますので、「興味を持った人を巻き込んで活動をする」ということは大きな意味を持っているのです。

- 5 . 模擬店への働きかけ、意志決定システムの構築

94年度、95年度を通じて抱えてきた問題点として、皿を使う当の模擬店に対して、ごみ減量への理解を広める十分な時間・場がないということがあった。他大学（例えば慶応）の例をみても、成功した大学では夏休みまでに模擬店に対しての呼びかけを始めている。そして、効果的なごみ減量の取組のためには、これまでの、ごみ処理というサービスを受ける受け身としての模擬店から、一歩進んで、ごみ減量の主体として、よりよい11月祭の参加形態を模索し提案できる積極的な模擬店の登場が望まれる。しかし、現状の11月祭各実行委員会のあり方は、そうした積極的な模擬店による提案を促す場とはなりえていない。環境対策委員会に求められているものはなんだろうか。

例年11月祭に参加する模擬店は、サークル主体・有志主体・1回生クラス主体のものにわけられる。1回生クラスは4月から存在している（当たり前だ）ので、春から学園祭でのごみ削減のアピールを行うことは可能だ。ただし、1回生の場合はこれまで大学の学園祭を経験したことがない人々なので（普通は）、ビジュアル（スライド、ビデオなど）を使ってイメージしやすいようにするのが良いだろう（毎年模擬店を行うことが慣例化しているサークルに対しても同様のアプローチが可能）。

そうした集まりを重ねていく中で、環境対策委員会の、模擬店の参加システムに関する提案を模擬店の参加主体と早くから（6月～夏休み前）共に練りかつ共有し、環境対策委員会・一般企画実行委員会・模擬店実行委員会等の場に模擬店が積極的に発言できるくらいに、模擬店の問題意識が高まることが望ましい。時間の流れを追って図に書いてみよう。

求められるのは、環境対策委員会と熱意ある模擬店とのパートナーシップ作りかな、とか訳のわからないことを書いてしまったが、書いておきたいのは、知る・知らされるの一方的な関係でなく、一緒になってごみ削減を、そしてより望ましい11月祭のありかたを追求していく姿勢が大事なのではなかろうか、と。

< 筆者紹介 >

- 伊東真吾 経済学部4回生(学生生活は7年目)。広報宣伝部担当。
竹内純 経済学部2回生。生協学生理事でもある。食品容器部担当。
田中史也 農学部1回生。生協学生委員。皿貸し参加模擬店もやっていた。
根岸健一郎 総合人間学部1回生。
林里香 工学部3回生。廃棄物処理部担当。
平井康宏 工学部3回生。議長。生協学生理事でもある。皿貸しを中心となり動かしていた。
南隆昭 農学部1回生。環境調査部担当。

< 編集後記 >

時は師走、身も凍る京都の北の果て、さらに息も凍るBOXにて宣言したりしことを忘れたわけではありませぬ。「我この一冊に命をかけよう。」

しかし、テストも終わり、日一日と昼中が長くなるにつれ、身も心もふわふわと・・・皆々様には多大な迷惑をおかけしました。

特に吉識宗佳君には大変お世話になりました。この場を借りてお礼を言いたいと思います。

みんなが幸せに暮らせることを祈りつつ・・・

弥生 京都より

'95年度11月祭環境対策委員会報告書

1996年3月発行

1996年5月改訂

Printed in Japan

11月祭環境対策委員会

無許可複製を推す

おくづけ

' 9 5 年度 1 1 月 祭 環 境 対 策 委 員 会 報 告 書
P D F 配 布 版

平 成 1 1 年 7 月 2 8 日 発 行
Edited in Japan

発 行 責 任 : 京 都 大 学 環 境 対 策 委 員 会 E c o m i t

お 問 い 合 わ せ :

原 田 浩 二 (薬 学 部 2 回 生)

〒 606-8501 京 都 市 左 京 区 吉 田 本 町 官 有 無 番 地

京 都 大 学 安 全 セ ン タ ー 情 報 局

Tel & Faz : 075-753-7609

E-mail : f00w0628@ip.media.kyoto-u.ac.jp

無 許 可 複 製 を 推 す